

本島通信

本島大教会 秋季大祭 神殿講話 (要旨)

【立教188年10月22日】

発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
電話 0877-27-3321 (代)
本島通信編集室 R251024-1026-18
奈良県天理市指柳町270-1
本島話所 〒632-0093
電話 0743-63-1571 (呼)
<https://www.honjima.com>
Email: webmaster@honjima.com
大教会 朝夕おつとめ時間
【11月1日～12月31日】
朝づとめ 午前6時45分
夕づとめ 午後6時00分

「たんのうは誠、誠は天の理」 おぢばへ心をつなごう

大教会世話人

みやもり よいちろう
宮森与一郎 先生

本日は本島大教会の立教188年秋季大祭をお勤めになりました、誠におめでとうございます。教祖の年祭を直前にひかえて、大教会に参拝させ

ていただきましたので、少し思うところをお話ししたいと思います。

教祖140年祭までいよいよあと3ヶ月になりました。3年前から教祖の年祭、三年千日を通していただくと、真柱様より諭達第四号を発表していただいて私たちは勤めてきたわけですが、早いものですね。あっという間に3年過ぎてしまいました。いよいよ最後の3ヶ月であります。皆さん、最初に自分で心定めたことを覚えていますか。もうコロッと忘れてしまった、ということはないでしょうか。また、ちょっと

は自分としては成果があがったとか、少し頑張れたなと思っておられる方もおられるでしょうし、なかなか上手いこといっていないと感じている方もおられるかもしれません。残りまだ3ヶ月あります。最後の踏ん張りをしっかり通らせていただきたいと思います。

さて、「徒然草」という随筆があります。今から約700年前の鎌倉時代末期に吉田兼好が書いた随筆集です。序段も含めて243段の短いお話からなるのですが、その第109段に「高名の木登りといひし男」という話があります。

「木登りの名人と呼ばれている男が、弟子を高い木に登らせて小枝を切り落としていた。弟子が危ない場所に落ちた。弟子が何と言わず、軒先まで降りてきた時に、『怪我をしないように気をつけて降りて来い』と声をかけた。『こんな高さなら飛び降りても平気ではないか。なぜ今更そのようなことを言うのか?』と問わば、『そこがポイントです。目眩がするくらい危ない枝に立っていれば、怖くて自分で気をつけるでしょう。だから何も言う必要はありません。事故は安全な場所で気が緩んだ時こそ

起こるのです』と答えた。(現代語訳：吾妻利秋)

私たちは教祖年祭活動だと言ってきましたが、あと残り3ヶ月だからそろそろ終わりだなあと思ってしまったのはダメなのです。最後まで一生懸命させていただくことが大事だと思うのであります。

今日から教祖年祭までの最後の3ヶ月間、100日足らずをしっかりと歩みを進めたいと思うのであります。信仰の道も同じかもしれません。信仰初代は何か大変なことがあったと思うのです。心配なこと、危ないこと、身上や事情など、それで信仰に入ったときは必死であります。言ってみれば木の一番高いところに登っているような時であります。神様にたすけていただきたい、ご守護いただきたいという思いが強いから、一生懸命それに励みます。ところがご守護いただいて、だんだん日が経つと安心してきます。すると何か情性に流されて、神様を見失ってしまうような気がするのです。ですから私たちは、代を重ねても一番高い危険なところにいるような心の使い方が大切だと思います。お道ではふしと言います。たと

え信仰の代を重ねてきても、「何でかな」と思うふしがあります。それはちょうど神様から、高い木から下りてきて安心してきたときに「氣をつけなさいよ」という言葉をかけていただいている時だと思うのです。せっかくのふし、神様から「氣をつけて通りなさいよ」と言ってもらっている残りの3ヶ月、しつかりと氣を引き締めて通らせていただきたいと思うのであります。

明治22年11月1日のおさしづに

「細い道は通りよい、往還道は通り難い。」

とあります。

細い道、すなわち危ない道、大丈夫かなと心配な日が続くときは、皆氣をつけて通る。でも、もう長年信仰して安心だからだいじょうぶ、という道になってくると、今度はだんだん通り難くなる、そういうお言葉であります。

どうか先人たちが通ってくれたその細道を忘れないように、この3ヶ月間通らせていただきますしよ。

先ほどの「徒然草」第52段には、「仁和寺にある法師」というお話があります。

「仁和寺に暮らしていたある坊さん

は、老体になるまで石清水八幡宮を拜んだことがなかったので、氣が引けていた。ある日、思い立って、一人で歩いて参拝することにした。八幡宮の付属である、極楽寺と高良神社だけ拜んで『これで思いは遂げました』と思ひこみ「八幡宮はこれだけか」と、山頂の本殿を拜まずに退散した。

帰ってから、友達に『前から思っていた事を、ついにやり遂げました。これまた、噂以上に素晴らしいものでした。しかし、お参りしている方々が、みんな登山をなさっていたから、山の上で行事でもあったのでしょうか？ 行ってみたかったのですが、今回は参拝が目的だったので、余計な事はやめておこうと、山頂は見てこなかったのです』と語った。

どんな些細なことで、案内がほしいという教訓である。(現代語訳・吾妻利秋)

この話から、自分勝手な思い込みをしない、ということが大事だと思うのであります。「ああ、俺はこれで十分やっている」とか「俺は信仰を良く分かっている」と自分勝手に思い込まないということです。この神殿に掲げてあるように「教祖の御心

を伝えよう」でありますから、自分勝手な信仰ではなく、教祖のひながた、教祖の御心を自分のものとしてそれを伝える。そうしないと本物は伝わらないと思うのであります。

さて、私たちは「八つのほこり」を教えていただいています。

別席では、「親神様は理の取り間違いを分かりやすくほこりにたえてお諭し下されます。」と始まり、「ほこりは吹けば飛ぶような些細なものであります。油断をしてそのままにしておくと、いつの間にかうずたかく積もり重なり、しまいには掃いても拭いても元通りきれいにはなりにくいものであります。それと同じように心遣いは親神様から我の理としてお許しいただいていると申しても、親神様の思召に沿わぬような氣随氣ままな心を遣いますれば、悩まねばならん、苦しまねばならんようになるのが天の理、それが分かり、親神様の教えを定規として早めに間違った心遣いを改めれば心は鮮やかとなり、身はすきやかと治まるのであります。」と続いて話されているのであります。

八つのほこりは「をしい」「ほしい」

「にくい」「かわいい」「うらみ」「はらだち」「よく」「こうまん」であります。その反対を考えたら理解しやすいと思うのです。

「をしい」とは「心の働き、身の働きを惜しみ、租税や掛かりものを出し惜しみ、国のため人のため身分相当の勤めを欠き、借りたるものを返すのを惜しみ、汚きことは人にさせて自分は楽をして暮らしたき心」これをほこりと仰るわけでありす。ですからこの反対を考えると、惜しみなく、氣前よく、であります。無償で何でもさせていただこう、そう考えるとまさにひのきしんの心で通れば良いわけです。

「ほしい」とは、「心も尽くさず身も働かずして金銭を欲しがり、良きものを着たり、良きものを食べたがる。あるが上にもことさら選り好みして欲しがる心」です。

これに対し反対は、今の状態で十分結構や、と思う心です。十分結構とは、たんのうの心でいたらいんだなと思うのであります。

「にくい」とは、「我が身を思つて言ってくれる人をかえって悪く思つてその人を憎み、養子を憎み、嫁を憎み、人の陰口を言つてあざけり笑

う」。ここには不思議と舅や姑は出てこないんです。養子や嫁のような若い者を憎むなということでしょうか。にくいの反対は愛おしむ、可愛がる、大切に思つてやる、ということだと思ふのです。おふでさきに、

一れつのごともハかわいばかりなり
とこにへたてわさらになければど

(十五号 69)

月日にわどのよなものもわが子なり
かわいばかりでみてハいれども

(十二号 88)

こんな事なにをゆうやとみなのもの
をもうであるふこともかハい、

(十一号 47)

月日にハせかいちつうのごともわな
かハいばかりをふもっているから

(十七号 49)

とあります。神様のお心は子どもも可愛いであります。その神様が可愛いと思つておられる他人を憎んでしまふ。これほど神様の心と逆の心を遣うことはないでしょうね。

皆さんの子どもが兄弟喧嘩をしているとします。理由は分からないけどお兄ちゃんが弟をバーンと怒っている。親はそれをみてどうするでしょう。お兄ちゃんに「もうやめとき」と言ふんじゃありませんか。「お

兄ちゃん、辛抱したり」と言ふんであります。これが親の心であります。分かってくれるだろうと思ふ方に「辛抱してやり」と言ふのが親の心であります。

次に「かわいい」は、先ほどの可愛いとはちよつと違う可愛いです。我が身可愛い、つまり自分勝手な心であります。我が身さえ良ければ他人はどうでもよい、我が身我が家のことばかり考えている心のことです。この反対の心は、思いやりの心、他人を大切に思ふ心であります。

「うらみ」とは、我が顔つぶされたとして人を恨む、我が望みを妨げられたとして人を恨む、誰がどんなことを言つたとして人を恨む。根に持ち、意趣に持つ。自分に力がないのに、また徳がないのに人を恨む。これがうらみだと仰せられます。

なんぎするものこゝろから
わがみうらみであるほどに

(十下り目)

とありますから、人を恨まず自分の身を恨むようにするがよろしい。

このうらみの反対は何か。許すことだと思ふのであります。お兄ちゃんとして許してやる。この心の遣い方であります。ところが家族は特に

許し難いのですね。父親は息子を許し難い。夫婦の間でも、隣の奥さんがしていることだったら腹が立たないのに、自分の嫁さんがしたら腹が立つ、そんなことがあるのですね。許す、これが大事なことであります。「はらだち」とは、人が悪いことを言つたとして腹を立て、誰がどんなことをしたとして腹を立てる。自分の道理を先に立てて、人の思いを考えないから腹が立つのであります。腹立ちと反対の心は穏やかな心、満足している心、すなわちたんのうの心であります。十分たんのうすることが大切です。

七つ目の「よく」とは、人のものを盗み、人のものを取り込み、人を騙す。女に迷う、男に狂うことです。このよくの反対は、清貧です。心を清らかに保つ、まさにたんのうの心であります。

八に「こうまん」とは、力がないのに我が身高ぶり、人を眼下に見下し、金持ちは金の力で人を叩きつける。役人は上目に媚び、下の者を苦しめ、知らないことを知った顔して人を見下し、人の欠点を探す。これがこうまんのほこりだと仰せられます。

こうまんの反対は謙虚であります。

慎み深い心であります。この慎んだ心の使い方とは、たんのうの心だと思ふのであります。

以上、八つのほこりの反対を考えると、私たちにとつて一番大切なことは日々たんのうの心をしっかりと治めて通ること。これで私は結構なんだ、ありがたいんだと、このたんのうして通るところに人がたすかつていく元があるはずであります。たんのうの人にこそ人はついてきてくれるはずであります。

なるほどの人、たんのうの人になるには時間がかかるかもしれませんが。なかなか他人に分かつてもらうには時間がかかるかもしれません。教祖は50年も通つてくださったのであります。私たちもたんのうの心で日々通らせていただき、おたすけに励ませていただくのだと思ふのであります。

明治23年5月13日のおさしづに、「これ程信心するのにな、というよな心の者皆多い。これではいかん。誠無い。受け取るものは無い。(中略)不足思えば皆不足になるで。たんのうより受け取る事出けん。(中略)たんのうは誠。誠は天の理や。天の理なら誠より偉いものは無いで。この理をよく悟つ

「てくれ。」

とあります。「俺、一生懸命やっているのに、なんで神様分かってくれない。ご守護いただけない」という心の人が多いだろう。これではいけません。誠がない。「なんでやねん」と思ったら誠の心がない、神様はそれは受け取れないと仰るのですね。不足を思えば不足になる。たんのうの反対は不足であります。もつと足りんようになると仰るのです。

誠とは人をたすける心です。「この人たすけさせてもらわない」と思ったら、我が身がたんのう出来てくる。たんのうは誠、たんのうこそ人が人をたすける元であり、人をたすけようと思う心こそがたんのうが治まって来る元だと仰せられるのであります。私たちはたんのうの心を治めて、しっかりと人だすけをさせていただく。また人だすけする中に、「自分がたんのうして通らなければ、この人たすからないな」と心が治まってくるのだと仰せられるのであります。

アフリカにコンゴブラザビル教会があります。ここは赤道のほぼ近い所にあるですね。暑いところです。教会はコンゴ人ばかりです。会長

さんもコンゴ人で、日本人は誰もいません。

そこで月次祭の日、日本の教会と同じようにおつとめ着を、あの暑い国で同じように着けて、日本語で座りづとめから十二下りまで全部やるんですよ。コンゴ人だけで。大変だと思ふのです。おつとめ着が汗でびしゃびしゃになって、後の管理が大変なんです。着付けも大変でしょう。袴のひもや、ひだも、ちゃんとしておかないとすぐダメになる。

そこで実は私は、着物を知らないコンゴ人にも簡単に着られるような、スカートのように履いてパチッと留められる袴とか、そんなものと考えてみたいと思ふのですが、ということとを真柱様に申し上げたことがあるのです。

真柱様は「ふーん」と仰って、「それもええけどな、その前に今着てやっているその人たちに、日本からおつとめ着のよく分かっている人に行ってもらって、おつとめ着の着付けをやったり、手入れの仕方を教えたり、事こまかく丹精する心を作れよ」と仰せられたのです。内緒ですよ。簡単にできるのもいいけれども、こちらがまずは丹精、努力、そいう

うことをしっかりとめるのが大事やろうということであります。

便利な方に行くのも良いことではありますが、お道の者はその前に、相手に心を通わせること。徒然草に出てくる仁和寺の法師のように、誰か案内する者、導く者がいたら岩清水八幡宮にちゃんと参拝できたように、私たちこそが先達となって事細かにいろいろなことを伝えていく。これが大切だということを仕込んでくださったと思ふのであります。

ですからコンゴブラザビル教会では、今でも皆さまと同じおつとめ着を着て勤めています。簡単なパチッという袴はいまだに作っていません。丹精させていただく、手引きをする。手引きとは、「こつちだよ」と最後まで手を引いてやることであります。

私の教会は昔、山の上にあります。皆歩いて、お供え物も担いで登っていた教会であります。建物もだんだん古くなって、念願はずっと山から下りることでした。私の父の時代に事情教会を預かり、一生懸命復興して、山から下りるのが最大の願ひであつたのです。

7年ほど前にやっと山から下りたのであります。皆が参拝しやすく

なつた。そうしたら参拝する人が増えたか。そんなことは全然ありません。山の上に一生懸命登ってくれた人たちが今でも来てくれています。月次祭にたまに行つたらいいわという人は、今でもたまにしか来ません。便利になつたからではなく、こちらがどれだけ丹精したかで信者さんたちは参つてくれるか、参つてくれなにかだというのがよく分かります。

さて、元初まりの話に「親神は、どろ海中のどじょうを皆食べて、その心根を味い、これを人間のたねとされた。」とあります。

どじょうが人間のたねだと教えられるのです。

どじょうの性質とはいったい何なのか。泥の中に居るんです。普通の魚は泥水の中にとお腹に泥が入るのです。鰯でも鰹でも釣つてきたら泥を吐かせないといけません。

ところがどじょうは、泥の中に潜るのですが、腹の中に泥が入らない。これ不思議ですね。

またどじょうは温和な性格で、穏やかなんです。他の魚を攻撃することがない。どじょうは水槽で飼うと、水槽の水がきれいになる。残つたもの汚いものを食べるお掃除屋さ

んなのです。

さらに底の方で生きているのです。水は枯れても泥の中に入っていて、また雨が降って水がたまると出てくる。これがどじょうであります。低い心、温かい、優しい、そして汚れをきれいにするひのきしんの心が人間のたね、どじょうであります。

どじょうの帰る場所はおぢばです。生まれ故郷、おぢばへ心をつないでいこう、これがどじょうであります。おぢばには安心があります。親の温みがあります。たすかる元がおぢばにあります。

どうか皆さん、私たちはいつも温かい心、優しい心、低い心、たんのうの日々を通して、そして人さんを、あなたもどじょうの性質を持っているんだ、おぢばへ共に帰る、親神様のご守護をいただこう、教祖のお心に触れようと、おぢばへ心をつないでくださるようお願いをして今日の話を終えたいと思います。

あと3ヶ月で教祖140年祭です。教祖に「ようがんばったな」と言ってもらえる3ヶ月をともに通らせていただきますでしょう。

誠にありがとうございました。

(文責・本島通信編集室)

親から子、子から孫へ 信仰を伝えよう

10月大教会教会長会議

立教188年10月22日

大教会長 片山幹太



私から報告とお願いを3点申し上げます。

来年(立教189年)の大教会巡教は、4月から6月にかけての3ヶ月間

に行かせていただきます。例年では1月から行いますが、来年は真柱様より頂戴する教祖140年祭のお言葉をいただいて、その思いに沿った巡教を行いたい上から、4月から実施になります。これは国内、海外も同じであります。よろしくお願いします。次に本日、宮森与一郎先生より頂戴した神殿講話は、教祖年祭に向かっての仕上げの仕込み、さらによ、う、ほくとしてこれからの歩みの中で大事な心の遣い方を頂戴しました。本島通信に要旨が掲載されますので、繰り返し学ばせていただき、我がこととしての歩みとさせていだきたと思います。

そして来月は斯道会別席団参(11月30日)があります。結構源さんの信仰姿勢に学び、世界の故郷であるおぢばに大勢の方をお連れして、さらに別席を運んでいただき、陽気ぐらしへ向かうようぼくとなるよう丹精させていただきます。

最後に、本島大教会長の片山昇4代会長が出直して来年で40年になります。大教会では来年10月21日に40年祭を勤めさせていただきたいと考えております。

40歳より若い人たちは、昇会長と

接することは一度もないことになり

ます。そこで4代会長の信仰信念や道標のようなものを知らない方々に伝えていく。親から子、子から孫へと伝えていく年祭にさせていただきますと思っています。

私からは以上でございます。ありがとうございました。

(文責・本島通信編集室)

大教会長動向

▼十一月(予定)▲

2日、ようぼく一斉活動日

(玉島大教会出向)

3日、仙峰分教会創立50周年巡教

8日、本宣道分教会巡教

22日、大教会月次祭執行

22、23日、本田中分教会鎮座奉告祭

並びに創立100周年記念祭

24日、修養科門出まなび

25日、かなめ会委員会

26日、本部月次祭参拝

27日、かなめ会

28日、新任教会長の集い

29日、斯道会別席団参前夜祭

30日、斯道会別席団参

30日、本部神殿奉仕当番

以上

秋季大祭 祭典役割

献饌長 岩橋竜造

伝 供 向所隆文・永島宗行・

後藤正治・奥村龍夫・伊東康成・

高垣光治・雲庵春彦・片山直明・

横山正次・高島栄造・長尾海和・

岩橋秀一・白垣初生・香川勝巳・

鎌田典夫・宮路和徳・村田輝夫・

大矢万三・上山康雄・大西剛・

川村吉夫・屋敷ゲリー・溝

口晋太郎・江草克二・牧野近

弘・肥後信

雅楽奉仕者 文岡育則・池

田恒治・上山薫・伊東賢太郎・

鎌田康典・吉田貴慶・白垣俊

生(順不同)

秋季大祭祭文

立教百八十八年十月二十二日

この神床にお鎮まり下さいます親神天理主命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

親神様には一れつの陽気ぐらしを楽しみにこの世人間をお創め下さる天保九年十月二十六日旬刻限の到来と共に教祖をやしるにこの世の表にお現れ下さるようづいさいの元を明かし世界たすけの真実の御教えをお啓き下さいました

爾来常に温かい親心をもってお連れ通り下さいます御慈愛の程は誠に有難く勿体ない極みでございます

私共は届かぬながらも一筋に心を正し親神様教祖にお受け取り頂ける御恩報じの道に励ませて頂いておりますがその中にも今日の吉き日は当大教会の秋の大祭を執り行う意義深い日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同心を一つに揃えて御教え通り座りづとめてをどりを陽気に勇んでつとめさせて頂きます

御前には国の内外から大勢の教え子たちが帰り集い喜び心もひとしおにおつたを唱和して日頃賜わる御守護に御礼申し上げ尚も変わらぬ親心にお継りする真実の状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

尚本日は大教会世話人本部員宮森与一郎先生のお入り込みを賜わり時旬の思いをお聞かせ頂きます

私共は尊いごの理を頂戴して年祭への仕上げの歩みを仕切り力をもつてたすけ一条に邁進させて頂きたいと存じます

又おぢばでは二十六日に秋季大祭が勤められ前日の二十五日には「第九十九回天理教青年会総会」が開催されますが一人でも多くの方々をお連れして御存命の教祖にお喜び頂けるよう丹精に努めさせて頂く所存でございます

更には又十一月一日と二日に開催されます「第五回ようばく一斉活動日」にはそれぞれの地域に所属するようばく信者も其々に年祭活動に於ける成人の歩みを一層進めさせて頂きたいと存じます

何卒親神様にはこの心をお受け取り下さいまして一段と自由の御守護を賜わり世界一れつが互いに立て合いたすけ合つ陽気ぐらしの世の状に一日も早く立て替わりますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます

(原文のまま)

入社祭

(立教188年10月22日)

▼文峰△肥後節子△肥後こより

【計2名】

10月22日(水)

【香川県丸亀市】

天候 曇時々雨
最低気温 13.6℃
最高気温 16.8℃
平均気圧 1025.4 hPa
平均湿度 82 %
平均風速 2.3 m/s
日照時間 0.0 時間
降水量 3.5 mm

※降水量は一日の総雨量

イリノイ教会 4代会長就任奉告祭

イリノイ教会(高垣弘明会
長、米国イリノイ州シカゴ市)

では、沖五郎会長の出直しに
ともない、7月26日のお運び
で、高垣弘明氏(53)の教会長
任命の理のお許しを戴いてお
りましたが、去る10月4日午
前10時より大教会長を迎え
(随行・岩橋元博准役員)4代
会長就任奉告祭を執り行いま



した。

当日は29℃、快晴に恵まれ、
米国内外より29名が参り集い
ました。

挨拶に立った大教会長は
「高垣弘明会長は今から約40
年前、14歳のときに、岩橋元
博氏とともに海外伝道要員と
して、両親から離れて、米国
へ派遣されました。今日は会
長の母や妹も日本から駆けつ
けて、奉告祭が執り行われ
ることに心からお喜び申し
上げたい」と祝意を述べ、続
いて目指す教会のあり方とし
て、「陽気ぐらしの箱となる
ような教会を目指すこと」「ひ
のきしんに励むこと」「布教
すること」「おちばへ心を
つなぐこと」「親神様を等とし
て心のほこりを払うこと」の
5つを示し、最後に「教祖140
年祭はお祝いではありません。
教祖にご安心いただき、お喜
びいただくための成人の歩み
です。イリノイ教会の第4章
が始まります。どうか心一つ

本京分教会 5代会長就任奉告祭

本京分教会(牧野近弘会長、
東京都練馬区)

許しを戴いておりましたが、
去る10月12日午前11時より大
教会長夫妻を迎え(随行・老
木邦光役員)5代会長就任奉
告祭を執り行いました。

当日は24℃の秋曇のもと、
77名が参り集いました。

挨拶に立った大教会長は、
牧野近弘会長が長年にわたり
本島詰所にて、こどもおちば
がえり受け入れ準備ひのき
しんに勤めてきたことに触
れ、「新会長は本日随行の老
木詰所主任が抱える大きな荷
物の一つを担ってくれていま
す。」と紹介。自身の信仰の捉
え方とした上で、「他人の抱
えている荷物を一つ担うこと
で、いざというとき親神様が
自分の荷物を抱えてたすけて
くださるのだと思います。新
会長はこれからも信者さんや

に成人の歩みを進めていた
だきたい」と成人の歩みを
促されました。
奉告祭には深谷洋アメリ
カ伝道庁長のご参拝もいた
だき、明るく陽気なおつと
めが勤められました。

部内教会が抱える荷物も担っ
ていくことでしよう。皆さま
もお互い支えあい、親神様
にお働きいただけるよう勇ん
で勤めましょう」とエールを送
りました。続いて目指す教会
のあり方として、「陽気ぐら
しの箱となるような教会を目
指すこと」「ひのきしんに励
むこと」「布教すること」「お
ちばへ心をつなぐこと」「親
神様を等として心のほこりを
払うこと」の5つを示し、縮
めくくり「教祖140年祭が間
近に迫ったこの旬での会長交
替は、本京として大きな勇み
の一步を踏み出すことになっ
たと思います。本京から陽気
ぐらしの輪がどんどん広がっ
ていくように、新しい会長を
芯に勇んでお勤めいただきた
い」と述べられました。
続いて座りづとめ・てをど
りが陽気に勇んで勤められま
した。

布教推進研修会

大教会布教部(平井真治郎部長)では、「布教推進研修会」を10月25日午後6時30分より詰所4階講堂にて開催。講師の西村和久先生(本部直属・一筋分教会長)より1時間、講話をいただきました。

この研修会は、これまで「ようばく研修会」として実施してきたものを、教祖年祭活動の仕上げる旬にあたり、さらに布教に焦点をおいてブラッシュアップしたもので、86名が受講しました。

西村先生はまず、逸話篇より「天の定規」を引用され、かしの・かりものの教理と心



通りの守護についてお話された後、このたびの三年千日の活動では「おさづけ3千回、戸別訪問3千軒、路傍講演1千回」を心定めてコツコツと実践していること。「人は結果を求めると挫折するが、種まきだと考えると継続すること。」「神の田地にまぐ真実の種は、必ずみな生えてくる」こと。さらに歌手の中島みゆきさんの歌「進化樹」の歌詞を紹介し、教祖お一人から始まったこの道を次に伝えて行く責任が私たちにあること。最後に、「チラシ一枚、あいさつ一声に、おたすけさせていただく側の心遣いをお供えしよう」とお話されました。

第99回天理教青年会総会

第99回青年会総会は週末にあたる10月25日(土)午後1時より本部中庭において開催され、本島分会(伊東賢太郎委員長)から青年会員32名が参加しました。

正午、写真の間に集合し、詰所からそろって式典会場へ移動。雨天が心配されましたが、雨は預けられ有難い総会となりました。

なお総会に先立ち、午前中は詰所修練室にて、総会のテーマである「たすかり」について練り合いを行い、一人ひとりがたすかっていたきた



い方の名前を挙げ、総会後にお願いとめを勤めました。

大裏地区稲刈りひのきしん

教会本部の大裏地区(天理市豊田町)圃場において、10月24日午前9時より稲刈りひのきしんを実施。3年目となる今回は、天理教校本科学研究課程1年生ら8名を含む総勢45名が参加し、汗を流しました。



のこりかま
鋸鎌をもって稲株を切り、薬で束ねて稲架に掛ける作業を約2時間かけて行い、秋の実りに感謝しました。

青年会マンスリー隊



青年会本島分会では、大教会祭典準備ひのきしんを行う「帰ろうぜ!本島!マンスリー隊(第13回)」を10月12日と13日の2日間実施。青年会員8名、OB1名、少年会員2名の11名が参加しました。餅つき、名称旗台組立、名称旗作成、提灯付け、教幕付けを行いました。

なお今後は11月24日(詰所)、12月21日(大教会)で実施する計画です。

【教会の掲示板】
本島ドットコムよりダウンロードできます



宮森先生おてなoshi

大教会おつとめ修練部(窪田靖明部長)では秋季大祭の世話人・宮森与一郎先生ご巡教にあわせて、10月21日午後5時より1時間、大教会神殿において宮森先生による「おてなoshi」を実施。帰参者や在籍者など98名が受講しました。

おもな手振りの型を振り返り、座りづとめ、よろづよ八首、三下り目、四下り目を稽古しました。

宮森先生はおつとめについて「澄み切った素直な心」「一手一つの心」「勇んだ心」です。



とめること、「教会はそのために奉仕者を揃える苦勞をさせていたくださましよう」と仰せられました。

本千代分教会年祭

本千代分教会(吉田晴雄会長、千葉県市原市)では、吉田ハン2代会長50年祭と、吉田義雄・枝美子3代会長夫妻20年祭を、片山好治本浜分教会長ご参拝のもと、10月19日午前11時より執り行いました。参拝者41名。



よくここと慶事

宮路ゆかりさん(霊峰分教会長の二女)と岡田直也氏(双名島大教会)の結婚式が10月18日、本部教祖殿で執り行われました。



事情はいび

(立教188年10月25日付)
本田中分教会

神殿増築及修築・内部改造並屋根葺替願

教会長 佐々木治道

遷座祭日願

遷座祭 立教188年10月28日

臨時祭典願

鎮座祭 立教188年11月22日

奉告祭・創立百周年記念祭

立教188年11月23日

以上

おさづけの理拝戴

(立教188年9月分)
吉松峰 山田望未

【計1名】

教会長資格検定合格

(立教188年9月17日付)
吉松峰 宮林かずみ

【計1名】

ご報告

片山好次君は立教188年10月25日付で本部青年に登用されました。

すき間のおはなし

ボケに哲学あり

西洋哲学は今から約2500年前の古代ギリシャに始まるとされています。小さな都市国家が各地に誕生し、それぞれが独自の政治体制や文化を持っていたうえに、地中海の要衝として交易で栄え、異民族や異文化、異教徒との交流が盛んになってきました。そこで特定の共同体にしか通用しない「物語」を使わず、どの共同体でも共有されうる「概念」を使って、筋道を立てて世界を説明しようとしたのが「西洋哲学」の始まりです。

同時代にインドではブッダが、中国では孔子や老子などが現れ、東洋哲学が生まれました。一方の日本は縄文時代後期にあたり、異民族や異文化は遠い話で、哲学の概念はまだなかったと考えられます。

日本が国家を作り、哲学を意識し始めたのは3世紀半頃の古墳時代、大和王権が整いつつあった頃ではないでしょうか。その頃すでに大陸では巨大国家と文化思想が出来上がっており、圧倒的な国力の差に日本人は飲み込まれないよう距離を保ちつつ、先進文化や技術、律令制度を取り入れていきました。

哲学者・野口良平は「列島哲学史」(みすず書房)において、「外から来た強力な価値観、優者」を太夫(たふ)ツッコミ、「地方・地元の土着の価値観、劣者」を才蔵(さいざう)(ボケ)とする2人1組の「千秋萬歳」に日本哲学の原型があり、のちの漫才につながっていったと説いています。

世界ではボケは馬鹿にされ蔑まれる立場になるでしょう。でも日本では上手いボケは技術であり、共感と敬意を得られるところに、日本人の哲学があるのかもしれない。

ボケに知性あり、ボケに哲学あり。

(むかいじよ)



大教会からの
お知らせ

10月22日教会長会議連絡事項

斯道会別席団参

【団参担当】

〈斯道会別席団参(第2回)〉

●期日：11月30日(日)

〈おやさとのきしん〉

●日時：午前10時～11時

●集合場所：境内掛西支所前

●内容：西境内地の除草、落葉掃除など

※雨天の場合、廻廊拭きひのきしんになります。

〈お願いづとめ〉

●日時：午前11時30分より

●場所：西礼拝場(東礼拝場から変更になりました)

〈帰参申込み(最終)〉

●提出締切：11月22日

※帰参の有無にかかわらず、すべての教会のご提出をお願いします。

※所定用紙は本島ドットコムから得ることができます。

※お申込み後の食数変更締切は11月26日正午です。締切以降の食数変更はできません。お申込み分の食事御供を申し受けます。

大教会月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

●対象：11月22日大教会月次祭に参加できないため、ライブ中継視聴を希望する方

●申込方法：

メールで、live@honjima.comに「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。

●申込締切：11月21日午後5時まで

●ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。



立教189年心定め提出

【総務部】

●「立教189年心定め」は、11月26日までに、直轄教会ごと所定の用紙にて、大教会長へご提出ください。

立教189年大教会巡教

【総務部】

●巡教期間：4月より6月まで

●直轄教会は希望日を所定の用紙に記入の上、12月22日まで、総務部へご提出下さい。

青年会マンスリー隊

【青年会本島分会】

●実施日：11月24日(祝)本島詰所
12月21日(日)本島大教会

11月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈大教会・食堂ひのきしん〉

●期間：11月21日～22日

●派遣教会：本京

〈詰所・食堂ひのきしん〉

●期間：11月25日～26日

●派遣教会：本廣、与島

統計(9月1日～30日)

教会名	初席	中席	雲ひ座	修養科	教人講習	検定講習
御幸濱		1				
南峰		1				
吉松峰			1			1
合計	0	2	1	0	0	1

布教部報告(10月分) 数字は本年の提出回数です

にをいがけ名簿提出教会(10月)

本島	8	本千代	10	本陽山	10
樺太	10	本千賀	9	赤峰	10
本倉岡	10	本千治	9	雅峰	10
本樺	10	本千恵	7	南峰	10
本室	9	本平濱	1	神峰	9
渋谷	8	本浜陽	3	豪峰	10
代々木	7	本攝	9	倉峰	9
本萬代	8	攝津	10	栄峰	5
本都	9	攝泉	9	大雄峰	8
本京	10	本太	10	栄森峰	9
本東	10	本萩	9	栄星峰	9
本草	10	本福	5	栄東峰	9
本護	8	本備前	10	霊峰	10
本三	10	本迪	5	實峰	1
本恵	10	本府中	9	大隅聖峰	9
本恵山	7	沖浦	10	大駿峰	10
本恵明	10	本亀	7	別峰	8
本静濱	10	本清水	7	大英峰	9
本静森	8	崇徳	10	鶴峰	9
本日米	9	与島	8	都峰	10
本浜	9	本高	10	仙峰	10
本米	10	本宣道	9	シータック	2
本米里	10	本九	10		
本米浜	10	本小倉	7		

計70教会 536名

おさづけ取次報告教会(10月)

本島	10	本千賀	10	本陽山	10
樺太	10	本千恵	8	本肥港	9
本倉岡	10	本浜陽	3	本新田	10
本陸奥	8	本攝	9	赤峰	10
本樺	10	攝津	10	雅峰	10
本室	9	本吹田	9	神峰	9
渋谷	8	攝泉	10	豪峰	9
代々木	8	本邦	8	倉峰	9
本萬代	9	本太	10	栄峰	5
本都	9	本萩	9	大雄峰	8
本京	10	本岡	8	栄森峰	6
本東	10	本山海	3	栄星峰	10
本道盛	10	安藝本中	7	栄東峰	6
本草	10	本備前	10	實峰	1
本三	10	本迪	8	大隅聖峰	9
本恵山	10	本府中	9	大松峰	9
本恵明	10	沖浦	10	大駿峰	10
本静濱	10	本亀	8	別峰	8
本日米	8	本清水	8	吉松峰	1
本浜	10	崇徳	10	大英峰	9
本米	10	与島	7	鶴峰	9
本米臺	7	本高	10	都峰	9
本米里	10	本宣道	5	仙峰	10
本米浜	10	本九	10		
本千代	10	本小倉	7		

計73教会 2,012回